

無雪期レスキュー講習会（西部地区）を開催

TOTO 助成を受け登山研で実施

遭難対策委員会

平成21年度無雪期レスキュー講習会が9月4日（金）～6日（日）富山県の国立登山研修所で行われた。登山研修所の独立行政法人日本スポーツ振興センターへの移管に伴い今年度より従来登山研修所で行っていた一般社会人向けの講習会を吸収し、TOTOの助成を受け、3日間の日程で実施された。

縦走・ハイキング、クライミングセルフレスキュー、クライミングチームレスキューの3コース45名を募集したが準備の遅れ、日数が延びて集りが心配されたが、今回は富山県山岳連盟の協力も得て、受講者28名で行われた。天候が心配されたが、雨に降られることもなく講師と受講生は真剣に無雪期のレスキュー技術の習得・研鑽に取り組んだ。



従来はレスキュー技術中心であったが、事故

予防のための安全登山推進のため初日に平成20年の山岳遭難事故の概況、登山とリスク管理の講義を取り入れ、メディックワークの恵秀彦講師による「楽しく学ぼう山の救急法」の講義、関西大学の青山千彰教授による「大雪山の事故について」の討議などが行われた。



縦走・ハイキングコースは主任講師を瀬藤常任委員が務め、受講者は12名であった。4日のセルフレスキュー概論の講義の後、5日は補助ロープの活用方法の実技と実際の登山道での活用練習を行った。午後には救急法の実技と

して止血、捻挫の処置のほか高エネルギー事故の応急手当を行い、その後大雪山の事故のグループ討議を行った。6日は負傷者の搬送方法と事故発生 of シミュレーションを行った。

クライミングセルフレスキューは渡邊常任委員が主任講師を務め、受講者は13名であった。4日はオリエンテーションの後、アンカーの作り方や基本的なノットなどについて学んだ。5日は流動分散の後、懸垂下降時のワンターによる制動の実態、連結部の通過、自己脱出、自己吊り上げ、リードビレイからの自己脱出などを行い、心肺蘇生法をはさんで最後に背





負い振り分け搬送のデモと説明があった。6日は介助懸垂、事故者の収容と下降などを行ったが、比較的、経験の浅い人が多く、基本技術中心に行われた。

クライミングチームレスキューは町田常任委員が主任講師を務め、受講者は3名であった。オリエンテーションのあと装備点検、支点への応力の説明があり、5日は支点の構築、ルート

岩場途中での負傷者の救助、搬送、ローダウン、ライジングを行い、6日に総合シミュレーションを行った、マンツーマンの形で実施されたため中身の濃い実践的な講習であった。

最後に閉講式が行われ各主任講師から講評があり、修了証が渡され終了したが、初めての3日間コースで3コースの時間配分や全体講義に課題を残したが、富山岳連の方のサポートもあり、受講者は講習に集中できた様子であった。

来年、1月29日（金）から31日（日）には積雪期レスキュー講習会（東部地区）が群馬県の土合で行われるので、こちらにも奮って参加して頂きたい。



（遭難対策委員長 西内 博）